

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	社会科学 I	杉谷武信	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

・地方公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。
社会科学の範囲である、法律、政治、経済、社会の分野のうち
重要な分野である政治、経済、社会をピックアップして学習を進め、社会科学の知識を深める。

【講義概要】

・政治や経済の仕組みを理解する。
政治…各国の政治制度、選挙制度、国際政治を中心に学習する
経済…ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学・経済史を中心に学習する
社会…社会保障、労働問題、環境問題、消費者問題を中心に学習する

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	政治 民主政治の基本原則と制度(その1)
3	政治 民主政治の基本原則と制度(その2)
4	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その1)
5	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その2)
6	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その3)
7	政治 日本国憲法の統治機構(その1)
8	政治 日本国憲法の統治機構(その2)
9	政治 日本国憲法の統治機構(その3)
10	政治 日本国憲法の統治機構(その4)
11	政治 政治の諸問題(その1)
12	前期 中間試験
13	政治 政治の諸問題(その2)
14	政治 政治の諸問題(その3)
15	政治 国際政治(その1)
16	政治 国際政治(その2)
17	前期 期末試験
18	政治 国政政治(その3)
19	経済 市場経済(その1)
20	経済 市場経済(その2)
21	経済 市場経済(その3)
22	経済 国民経済の流れ(その1)
23	経済 国民経済の流れ(その2)
24	経済 国民経済の流れ(その3)
25	経済 国民経済の流れ(その4)
26	後期 中間試験
27	経済 日本経済の発展(その1)
28	経済 日本経済の発展(その2)
29	経済 国際経済の動向と国際協力(その1)
30	経済 国際経済の動向と国際協力(その2)
31	社会 労働問題と消費者問題(その1)
32	社会 労働問題と消費者問題(その2)
33	社会 人口問題(その1)
34	社会 人口問題(その2)
35	後期 期末試験
36	社会 地球環境問題

【成績評価方法】

試験、小テスト、授業態度、出席率によって総合的に評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・教科書を使用し、重点項目(「ポイント」「P」)となっているところを中心に、できるかぎり効率的な学習を行う。
・教科書の練習問題や過去問、オリジナル問題を解きながら、公務員や航空大学校等の一次試験合格をめざす。
・担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキル I	杉谷武信	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会人としての意識と、それを実践する行動、発言、姿勢を身に付ける。

【講義概要】

社会人に必要な、敬語や接遇用語の使い方、電話応対や接遇の仕方、ビジネス文書の作成など職場において必要とされるビジネススキルの基本を身につける。
学んだビジネスマナーを実践できるよう、講義に加えロールプレイングなども取り入れる。

回	授業計画及び学習内容
1	仕事に取り組む心構え／学生個人の把握(個人面接、SPIの実施)
2	
3	指示の受け方・報告の仕方、職場の人間関係構築について
4	
5	社会人としての基本動作とは
6	
7	社会人としての話し方、話の聞き方
8	
9	敬語の基本、間違えやすい敬語
10	
11	来客応対① 接遇とは、受付、名刺の扱い
12	
13	来客応対② 来客応対について
14	
15	訪問のマナー① 訪問時に気を付けること
16	
17	訪問のマナー② 訪問の実際・・・ロールプレイング
18	
19	電話応対① 電話応対の注意点、受け方・かけ方の基本
20	
21	電話応対② 電話応対の具体例・・・ロールプレイング
22	
23	電話応対③ クレーム電話等の対応、携帯電話・・・ロールプレイング
24	
25	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 冠
26	
27	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 婚
28	
29	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 葬
30	
31	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 祭
32	
33	ビジネス文書における注意事項
34	
35	ファイリングのコツとは
36	

【成績評価方法】

成績は出席商況、提出物、授業態度等を総合的に勘案して決定する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

1. 学生個人の把握(個人面接等の徹底)・・・前・後期
2. 学生生活ならびに就職活動の指導・・・前・後期
3. 伝達事項・・・前・後期

※常に言葉使い等の礼儀を指導する。担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	総合講座 I	阿部 誠一	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

<目的・概要>

航空無線通信士の無線工学の試験内容に関しその基礎的知識を習得する。

<達成目標>

無線工学の基礎的問題を解けるとともに応用問題を理解するための電気の基礎知識を習得する。

【講義概要】

第1章 電波の性質

電波の発生、基本的性質、波長と周波数、電波の分類と利用状況等

第2章 電気磁気

電界の基本法則、磁界の基本法則、電流の磁気作用等

第3章 電気回路

電流、電圧、電力、直流及び交流、直流回路、交流回路、回路素子、導体および半導体フィルタ等

第4章 半導体及び電子管

半導体、集積回路、マイクロ波用電力増幅半導体素子、マイクロ波用電力増幅電子管

回	授業計画及び学習内容	
1	第1章 電波の性質	1. 電波の発生 2. 基本性質 3. 電波の偏波
2		4. 真空の固有インピーダンス 5. 電波のエネルギー
3		6. 波長と周波数 7. 電波の分類と利用状況
4		演習問題・既出問題演習
5	第2章 電気磁気	1. 電界の基本法則 1-1 静電誘導 1-2 静電界
6		1-3 静電容量とコンデンサ 演習
7		2. 磁界の基本法則 2-1 磁石 2-2 磁界
8		3. 電流の磁気作用 1, 2 右ねじと左手の法則
9		3-3 電磁誘導
10		3-4 フレミングの右手の法則
11		演習問題・既出問題演習
12	第3章 電気回路	1. 電流 2. 電圧
13		3. 電力
14		4. 直流及び交流 4-1 直流
15		4-2 交流
16		5. 回路素子 5-1 抵抗とオームの法則
17		直流回路演習
18		5-2 コンデンサ
19		5-3 コイル 交流回路演習
20		交流回路演習
21		6. 導体、絶縁体及び半導体
22		7. フィルタ 7-1 概要 7-2 低域通過フィルタ
23		7-3 広域通過フィルタ 7-4 帯域通過フィルタ
24	第4章 半導体及び電子管	1. 半導体 1-1 半導体とその性質
25		1-2 N型半導体とP型半導体
26		1-3 ダイオード
27		演習問題・既出問題演習
28		1-4 トランジスタ 1-4-1 バイポーラトランジスタ
29		1-4-1 バイポーラトランジスタ基本回路
30		1-4-2 電界効果トランジスタ
31		演習問題・既出問題演習
32		2. 集積回路
33		3. マイクロ波用電力増幅半導体素子
34		4. マイクロ波用電力増幅電子管 4-1 概要
35		4-2 進行波管
36		演習問題・既出問題演習

【成績評価方法】

方法：定期試験の成績、出席状況、授業態度、国家試験に対する積極性など総合的に評価する。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

特徴：市販の航空無線通信士養成課程用テキストを中心に演習問題を与え学生自ら調べ解答させ習得させる。

無線技術士や電気通信工事担任者等の資格対策教育を40年以上行ってきた経験をもとに、理解すべき事項と暗記すべき事項を明確にし、問題解答能力を養う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	航空無線	阿部鍼一	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

<目的・概要>

航空無線通信士国家試験のための電波法規について学ぶ。

<達成目標>

航空無線通信士国家試験の問題を理解し解答できる実力をつけることを目標とする。

【講義概要】

市販のテキスト(航空無線通信士用法規)を使用して、毎回、法令の名称別の規定に関する演習問題(既出問題)を与え各自で調べ解答させた後、正解と解説を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	第1章 電波法の目的 1. 目的 2. 概要 3. 用語の定義等
2	第2章 無線局の免許 1. 無線局の開設
3	2. 免許の有効期間 3. 免許状の記載事項等
4	3. 免許の承継 4. 免許の特例 5. 無線局の廃止
5	第3章 無線設備 1. 電波の質 2. 電波の形式等の表示
6	3. 送信装置 4. 受信装置 5. 送受信空中線
7	6. 安全施設 7. 保護装置 8. 周波数測定装置の備付
8	10. 航空機用救命無線機～12. 衛星通信設備
9	13. 無線航行設備
10	14. その他の無線設備
11	第4章 無線従事者 1. 資格制度 2. 無線設備の操作等の範囲
12	3. 免許 4. 携帯義務 5. 免許証の再交付、返納
13	第5章 運用 1. 一般 1-1通則(1-1-1～1-1-2)
14	1-1-通則(1-1-3～1-1-7)
15	1-2一般通信方法(1-2-1～1-2-5)
16	1-2一般通信方法(1-2-6～1-2-11)
17	2. 海上移動業務等 2-1通則
18	2-2通信方法(2-2-1～2-2-3)
19	(2-2-4～2-2-8)
20	2-2-8～2-2-12)
21	2-3遭難通信(2-3-1～2-3-2-6)
22	(2-3-2-7～10)
23	(2-3-2-11～16)
24	2-4緊急通信
25	2-5安全通信～3固定業務等
26	第6章 業務書類 1. 時計 2. 業務書類(2-1～2-2)
27	2. 業務書類(2-3～2-4)
28	第7章 監督 1. 技術基準適合命令 2. 電波の発射の停止
29	3. 無線局の検査～6. 遭難通信を行った場合等の報告
30	第8章 罰則等 1. 手数料の納付～3. 罰則
31	第9章 関係法令
32	第10章 国際法規 1. 国際電気通信連合憲章等
33	2. 国際電気通信連合憲章に規定する無線通信規則(1～3)
34	2. 国際電気通信連合憲章に規定する無線通信規則(4～8)
35	3. 国際電気通信連合憲章に規定する国際電気通信規則の概要
36	4. 国際民間航空条約の概要 5. その他の国際条約

【成績評価方法】

方法: 定期テストの成績、出席状況、授業態度、国家試験に対する積極性等を総合的に評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

特徴: 市販の航空無線通信士養成課程用テキストを中心に演習問題を与え学生自ら調べ解答させ習得させる。
無線技術士や電気通信工事担任者等の資格対策教育を40年以上行ってきた経験をもとに、理解すべき事項と暗記すべき事項を明確にし、問題解答能力を養う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	フライトシミュレーション I	長野昭一・黒羽則和	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。

【講義概要】

フライトシミュレーションを使った操縦技術を身に付けながら、飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。

新たな知識・技術を少しずつ身に付けながら、それまでに学んだ操縦技術を繰り返し、経験を重ねる。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	学習ガイダンス/シミュレータについて
2	計器出発方式
3	
4	↓
5	直線水平飛行
6	
7	↓
8	水平線旋回
9	
10	↓
11	空中操作旋回バンク(20°)
12	
13	空中操作旋回バンク(30°)
14	
15	空中操作旋回バンク(45°)
16	
17	前期総合操作演習
18	

19	ストール(失速)
20	↓
21	スローフライト
22	
23	↓
24	計器進入方式
25	
26	↓
27	トラフィックパターン
28	
29	↓
30	ハンガー前ストップ
31	
32	↓
33	トータル操縦演習
34	
35	↓
36	

【成績評価方法】

操縦に関する各PHASEでの総合評価。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

航空機の模擬操作を通じ、パイロットとしての基本を習得するとともに、社会人としての総合能力のレベルアップを図る。会話形式で一般常識の学習や過去の事例研究を行っている。担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	情報科学 I	新井愛美	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基礎知識を広く学習し、情報の概要を身に付ける。
就職後、会社等で使用するパソコン業務をスムーズに行えるようにすることを目標とする。

【講義概要】

前期は一般的に使用されているアプリケーション(Word, Excel, PowerPoint)の基本操作をマスターする。
後期は前期に行ったことを踏まえ、応用力を付けて実務で役立つようにする。

回	授業計画及び学習内容
1	授業説明、フォルダ構成、文字入力など
2	Word 基本機能
3	Word 表作成
4	Word 図形の作成
5	Word 基本総合
6	Word テスト
7	Excel 基本機能
8	Excel 計算式・関数
9	Excel グラフ
10	Excel 絶対参照
11	Excel 基本総合
12	Excel テスト
13	PowerPoint 基本機能
14	PowerPoint プレゼン資料作成
15	PowerPoint プレゼン
16	Word応用 DTPとは
17	Word応用 チラシ作成
18	Word応用 チラシ作成
19	Word応用 チラシ課題制作
20	Excel応用 3D集計、シートの編集
21	Excel応用 個数の関数、順位関数
22	Excel応用 データベース
23	Excel応用 IF関数1
24	Excel応用 IF関数2
25	Excel応用 IF関数3
26	Excel応用 論理関数
27	Excel応用 VLOOKUP関数
28	Excel応用 条件付き書式、シートの保護、その他便利な機能
29	Excel応用 総合問題2
30	HTML&CSS Webページ作成1
31	HTML&CSS Webページ作成2
32	HTML&CSS Webページ作成3
33	HTML&CSS Webページ作成4
34	情報概論、情報社会のモラル、知的財産権
35	テスト
36	テスト返却とまとめ

【成績評価方法】

出席状況、中間テスト、期末テスト。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

社会人に必要なアプリケーションを用いて、対話形式で授業を行う。担当教員は専門学校において情報分野で十分な教育経験を有す。過去、企業研修や大学講座を担当した経験あり。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数的処理 I	佐藤 保幸	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

各種航空関係試験で出題割合の多い、数的処理の問題がどのようなものかを知り、解けるようにすることが目標である。本講義では数的処理の問題をテーマごとに分類し、論点とその解法を身につける。文章理解、数学、自然科学と重複、関連することが多い。両輪となって理解できるとよい。

【講義概要】

数的処理とは、文章や資料を読み、表な図を書きながら情報を整理し、数学の知識を用いて問題を解く、知能系の科目である。航空試験のみならず、就職試験でも類似の問題が出題され、数的処理自体が、受験者の知能を測定するツールとして定番化しており、情報処理能力を測るツールとしても扱われている。数的処理と聞くと数学と勘違いしている学生が散見されるが、数学とは異なる。勿論、必要最低限の数学を使いはするが、文章をしっかりと正確に読む「読解力」が強く要求される科目であり、文章の読み方などに焦点を当てて講義をしていく。

回 授業計画及び学習内容

1	計算/方程式の基礎
2	文章題(連立方程式, 不等式, 不定方程式)
3	文章題(比と割合, 濃度, 損益算)
4	速さ(速さの3要素, 旅人算, 周回算, 時計算, ダイアグラム)
5	速さ(流水算, 通過算, 仕事算, ニュートン算)
6	整数問題(約数・倍数, 素数, 剰余)
7	整数問題(規則性, 数列, 虫食い・覆面算, 魔法陣)
8	場合の数
9	確率
10	平面図形(三角形, 多角形, 円)
11	これまでの総復習/前期中間テスト
12	集合(ベン図, カルノー表・キャロル表, 線分図)
13	論理(全称命題と存在命題, ベン図, 真偽表など)
14	対応関係
15	試合(総当たり戦, 対戦日程, トーナメント戦)
16	これまでの総復習/前期期末テスト
17	順序関係(順位, 数量)
18	位置関係(方位, 部屋割り, 座席表)
19	数量推理/操作手順
20	証言推理
21	立体図形の基礎/正多面体とその展開図
22	立体の切断/スライス法
23	投影図/位相図
24	これまでの総復習/後期中間テスト
25	サイコロと五面図/平面パズル
26	軌跡
27	回転体/円盤の回転
28	資料解釈の基礎/実数の表
29	構成比/割合
30	指数
31	対前年増加率
32	これまでの総復習/後期期末テスト
33	相関図
34	様々な資料
35	最適化(線形計画法, PERT法)
36	その他

【成績評価方法】

成績は、中間テスト、期末テスト、出席、授業態度等を総合的に勘案して決定する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

「わかった！」は当然大事なことである。しかし、最も大事なことは「できる」ようになることである。そこで、講師オリジナルのレジュメで基礎を学び、演習書で演習する、という形式を取る。そのために、問題を数多く解き、繰り返し反復する。これは、各自が歯を食いしばって行わなければならない。
担当教員の専門は応用数学(数理物理学)だが、数学の応用範囲は幅広く、自ずと専門対象も幅広く扱っている。実務的な応用例を紹介しながら、難しいことをかみ砕いてわかりやすく伝えていきたい。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	自然科学 I	笹 茂夫	6単位・108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

<目的・概要>

物理の基本である力学とエネルギーの理解をしたうえで、電磁気の基礎を扱う。

<達成目標>

航空大学入試問題のうち、力学分野の基本問題が解けるようになることを目標とする。

【講義概要】

力学の分野である落下運動、力のつりあい、運動の法則、力学的エネルギーおよび電磁気学の分野である電場と電位について学習する。

回	授業計画及び学習内容
1	物理の基礎練習 指数 有効数字他
2	I・物体の運動 概要説明
3	1・等速直線運動
4	2・変位と速度
5	3・速度の合成と分解
6	4・相対速度
7	II・落下速度 概要説明
8	1・自由落下
9	2・鉛直投げおろし 鉛直投げ上げ
10	3・水平投射
11	4・斜方投射
12	III・力のつりあい 概要説明
13	1・重力
14	2・糸の張力 弾性力
15	3・力の合成と分解と力のつりあい
16	4・圧力と浮力
17	IV・運動の法則 概要説明
18	1・慣性の法則
19	2・運動の法則
20	3・作用反作用の法則
21	4・静止摩擦力 動摩擦力 空気抵抗
22	5・運動方程式
23	V・剛体に働く力 概要説明
24	1・力のモーメント
25	2・剛体に働く力の合成
26	3・剛体のつりあい
27	VI・力学的エネルギー
28	1・仕事の原理
29	2・仕事率
30	3・運動エネルギー 位置エネルギー
31	4・力学的エネルギー保存の法則
32	VII・電場と電位
33	1・電荷と静電気力
34	2・電場と静電気力
35	3・電位と電位差
36	4・静電誘導と誘電分極

【成績評価方法】

中間・期末テスト、課題提出、小テスト、出席率を総合的に勘案して評価を行う。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義に合わせた演習を毎回行う。担当教員は専門学校において電気物理分野で十分な教育経験を有する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数学 I	仲田まり子	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

高校で学んだ数 I・A・II の基礎レベルの問題を理解し確実に解けるようになる

【講義概要】

航空大学校、航空学生等の受験に必要とされるレベルの数学の問題を解くための土台作りをする

回	授業計画及び学習内容	
1	授業の進め方についてのガイダンス・プレースメントテスト	
2	数と式	複雑な式の展開
3	因数分解 ①	
4	因数分解 ②	
5	実数	
6	式の値①	
7	式の値②	
8	一次不等式	
9	二次関数	関数とグラフ ①
10	関数とグラフ ②	
11	二次関数の最大最小 ①	
12	二次関数の最大最小 ②	
13	二次方程式 ①	
14	二次方程式 ②	
15	グラフとX軸の位置関係 ①	
16	グラフとX軸の位置関係 ②	
17	二次不等式	
18	図形と計量	三角比の基礎
19	三角比の拡張	
20	正弦定理と余弦定理 ①	
21	正弦定理と余弦定理 ②	
22	正弦定理と余弦定理 ③	
23	三角形の面積、空間図形 ①	
24	三角形の面積、空間図形 ②	
25	図形の性質	三角形の外心、内心、重心 ①
26	三角形の外心、内心、重心 ②	
27	三角形の色々な性質 ①	
28	三角形の色々な性質 ②	
29	円の基本性質	
30	円と直線 ①	
31	円と直線 ②	
32	空間図形	
33	整数の性質	約数と倍数 ①
34	約数と倍数 ②	
35	整数の性質の活用 ①	
36	整数の性質の活用 ②	

【成績評価方法】

中間試験・期末試験・授業中の課題への取り組み方等を総合的に評価。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、高校課程の数学を復習しながら演習問題を解くことが中心となる。
学生には「自分で考える」を意識するよう働きかけながら、必要であれば学生同士で「教え合い」ながら目標到達を目指す。担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語リスニング I	高野美智子	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 550

【講義概要】

リスニングテキストにそって、TOEICの問題に挑戦する。Dictationとシャドーイングを行い、リテンションを鍛える。

回	授業計画及び学習内容
1	TOEIC Part 1 演習 → dictaion & シャドーイング
2	
3	短い文章に区切って読む
4	記事を読んでタイトルをつける
5	短い文章単位でリスニング
6	キーワードから大意を把握
7	
8	前期中間試験(TOEIC形式)
9	試験結果の確認と復習
10	TOEIC Part 2 演習 → dictaion & シャドーイング
11	
12	映画のタイトルをつける
13	ことわざを含む会話のリスニング
14	背景知識を使ってニュースを読む
15	コラムを段落ごとにリーディング
16	
17	前期期末試験(TOEIC形式)
18	試験結果の確認と復習
19	TOEIC Part 3 演習 → dictation & シャドーイング
20	
21	音の同化と連結を聞き取る
22	やや長めの文章単位で読む
23	地図を見ながらリスニング
24	文章を読んで答えを探す練習1
25	
26	後期中間試験(TOEIC形式)
27	試験結果の確認と復習
28	TOEIC Part 4 演習 → dictaion & シャドーイング
29	
30	文全体のテーマを把握
31	広告を読んで好みを探そう
32	テーマを把握してリスニング
33	文章を読んで答えを探す練習2
34	
35	後期期末試験(TOEIC形式)
36	試験結果の確認と復習

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(文法)I	高野美智子	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 550

【講義概要】

高校で学習する英文法の総復習を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	英文法(5文型)
2	英文法(会話文で使う疑問詞)
3	英文法(品詞 1:動詞、形容詞、副詞、名詞)
4	英文法(品詞 2:動詞、形容詞、副詞、名詞)
5	英文法(自動詞と他動詞)
6	英文法(不定詞1)
7	英文法(不定詞2)
8	英文法(動名詞1)
9	英文法(動名詞2)
10	英文法(使役動詞)
11	英文法(知覚動詞)
12	英文法(受動態)
13	英文法(仮定法1)
14	英文法(仮定法2)
15	英文法(不定代名詞)
16	英文法(関係詞1)
17	英文法(関係詞2)
18	英文法(関係詞3)
19	英文法(比較1)
20	英文法(比較2)
21	英文法(比較3)
22	英文法(分詞)
23	英文法(分詞構文)
24	まとめのテスト
25	英文法(接続詞)
26	英文法(呼応)
27	英文法(前置詞)
28	英文法(時制)
29	英文法(助動詞)
30	英文法(付加疑問文)
31	英文法(熟語1)
32	英文法(熟語2)
33	英文法(会話表現1)
34	英文法(会話表現2)
35	英文法(会話表現3)
36	学年末テスト

【成績評価方法】

・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEICスコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(リーディング)I	高野美智子	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 550

【講義概要】

速読用英語長文を用いて、TOEICに必要な速読のスキルを向上させる。

回	授業計画及び学習内容
1	TOEIC Part7のスコアアップ1 時間配分を正しく行う／よく出るフレーズを覚える
2	TOEIC Part7のスコアアップ2 解答中の集中力を維持する／知らない単語が出たときの対処法
3	TOEIC Part7のスコアアップ3 ダブルパッセージの「欄外の出来事」
4	TOEIC Part7の解き方1 シングルパッセージの解き方
5	
6	TOEIC Part7の解き方2 ダブルパッセージの解き方
7	
8	TOEIC Part7の解き方3 トリプルパッセージの解き方
9	
10	文章ジャンル別の攻略1 E-mail (Eメール)
11	
12	文章ジャンル別の攻略2 article (記事)
13	
14	文章ジャンル別の攻略3 Web page (webページ)
15	
16	文章ジャンル別の攻略4 advertisement (広告)
17	
18	前期中間試験(長文読解問題)
19	前期復習(試験解答解説含む)
20	文章ジャンル別の攻略5 notice (告知)
21	
22	文章ジャンル別の攻略6 letter (手紙)
23	
24	文章ジャンル別の攻略7 text message chain (チャット)
25	
26	文章ジャンル別の攻略8 online chat discussion (オンラインチャット)
27	
28	問題形式別ポイント1 内容把握問題
29	問題形式別ポイント2 選択肢検証問題
30	問題形式別ポイント3 推測問題
31	問題形式別ポイント4 テーマ把握問題
32	問題形式別ポイント5 語彙問題
33	問題形式別ポイント6 書き手の意図問題
34	問題形式別ポイント7 文挿入問題
35	後期期末試験(長文読解)
36	後期復習(試験解答解説含む)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	社会科学Ⅱ	杉谷武信	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

・地方公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。

【講義概要】

・政治や経済の仕組みを理解する。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	ガイダンス
2	社会 社会保障制度のあゆみ(その1)
3	社会 社会保障制度のあゆみ(その2)
4	社会 医療問題
5	社会 環境問題・公害問題
6	問題演習(その1)
7	問題演習(その2)
8	問題演習(その3)
9	問題演習(その4)
10	問題演習(その5)
11	問題演習(その6)
12	前期中間試験
13	まとめ
14	問題演習(その7)
15	問題演習(その8)
16	問題演習(その9)
17	前期期末試験
18	まとめ
19	自我の発達過程
20	医療事情
21	社会科学の歴史 合理論と経験論(その1)
22	社会科学の歴史 合理論と経験論(その2)
23	社会科学の歴史 ルネサンスと宗教改革(その1)
24	社会科学の歴史 ルネサンスと宗教改革(その2)
25	メディアの使い方 メディアリテラシーとクリティカルシンキング
26	後期中間試験
27	まとめ
28	日本的経営慣行(その1)
29	日本的経営慣行(その2)
30	日本の食文化
31	スポーツからわかる社会事情
32	人口減社会をめぐる課題
33	国家戦略特区をめぐる問題
34	介護をめぐる課題
35	後期期末試験
36	まとめ

【成績評価方法】

試験、小テスト、授業態度、出席率によって総合的に評価する。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・1学年の学習を踏まえて、教科書の練習問題や過去問、オリジナル問題を解きながら、公務員や航空大学校等の一次試験合格をめざす。

・あわせて教科書を使用して、重点項目(「ポイント」「P)」となっているところを中心に、知識の確認・補強を行う。

・後期については、教科書を用いながら、社会科学の歴史や時事を学び、専門学校生や社会人にふさわしい社会科学の知識を身につけていく。

・担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキルⅡ	杉谷武信	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会に出て、即通用するような人材を育成する。

【講義概要】

社会人に必要な、敬語や接遇用語の使い方、電話応対や接遇の仕方、ビジネス文書の作成など職場において必要とされるビジネススキルの基本を身につける。
学んだビジネスマナーを実践できるよう、講義に加えロールプレイングなども取り入れる。

回	授業計画及び学習内容
1	仕事に取り組む心構え／学生個人の把握(個人面接、SPIの実施)
2	
3	指示の受け方・報告の仕方、職場の人間関係構築について
4	
5	社会人としての基本動作とは
6	
7	社会人としての話し方、話の聞き方
8	
9	敬語の基本、間違いやすい敬語
10	
11	来客応対① 接遇とは、受付、名刺の扱い
12	
13	来客応対② 来客応対について
14	
15	訪問のマナー① 訪問時に気を付けること
16	
17	訪問のマナー② 訪問の実際・・・ロールプレイング
18	
19	電話応対① 電話応対の注意点、受け方・かけ方の基本
20	
21	電話応対② 電話応対の具体例・・・ロールプレイング
22	
23	電話応対③ クレーム電話等の対応、携帯電話・・・ロールプレイング
24	
25	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 冠
26	
27	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 婚
28	
29	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 葬
30	
31	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 祭
32	
33	ビジネス文書における注意事項
34	
35	ファイリングのコツとは
36	

【成績評価方法】

授業態度と出席状況。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

1. 学生個人の把握(個人面接等の徹底)・・・前・後期
2. 学生生活ならびに就職活動の指導・・・前・後期
3. 伝達事項・・・前・後期

※常に言葉使い等の礼儀を指導する。担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	自然科学Ⅱ	高橋市郎	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学入試問題、海上保安学校学生採用試験問題等のうち、物理学分野(特に力学、電磁気および波動)の問題を解けるようにする。

【講義概要】

力学、電磁気、波動の基礎と応用的内容を扱い、基礎理論を習得した後、航空大学、海上保安学校等の既出入試問題演習を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	コンデンサ(1)
2	コンデンサ(2)
3	電流と磁場(1)
4	電流と磁場(2)
5	電磁誘導(1)
6	電磁誘導(2)
7	運動量と力積(1)
8	運動量と力積(2)
9	円運動・単振動(1)
10	円運動・単振動(2)
11	波動(1)
12	波動(2)
13	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(1)
14	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(2)
15	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(3)
16	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(4)
17	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(5)
18	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(6)

【成績評価方法】

中間・期末試験、課題提出、小テスト、授業への取り組み、出席を総合的に勘案し評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

物理現象・理論の解説、例題解説と演習を基本とする。
担当教員は専門学校において電気物理分野で十分な教育経験を有し、また大学において電気電子工学実験指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	フライトシミュレーションⅡ	長野昭一・黒羽則和	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。

【講義概要】

安定した飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	学習ガイダンス/シミュレータについて
2	計器出発方式
3	
4	↓
5	直線水平飛行
6	
7	↓
8	水平線旋回
9	
10	↓
11	空中操作旋回バンク(20°)
12	
13	空中操作旋回バンク(30°)
14	
15	空中操作旋回バンク(45°)
16	
17	前期総合操作演習
18	

19	ストール(失速)
20	↓
21	スローフライト
22	
23	↓
24	計器進入方式
25	
26	↓
27	トラフィックパターン
28	
29	↓
30	ハンガー前ストップ
31	
32	↓
33	トータル操縦演習
34	
35	↓
36	

【成績評価方法】

操縦に関する各PHASEでの総合評価とする。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

航空機の模擬操作を通じ、パイロットとしての基本を習得するとともに、社会人としての総合能力のレベルアップを図る。会話形式で一般常識の学習や過去の事例研究を行っている。担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	情報科学Ⅱ	波多野将明	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報機器を動かしているプログラムの基本的な動作を学ぶ。
 プログラミングとはどのようなものか知る。
 情報セキュリティの重要性を理解する。
 java言語を用い簡単なプログラムを作成実行できるようになる。

【講義概要】

情報機器の動作原理を知る。
 コンピュータで実践しながらプログラミングについて学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	ファイルシステム1 フォルダの作成 移動1
2	ファイルシステム2 フォルダの移動2 名前変更
3	エディターの使い方1
4	エディターの使い方2
5	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行1
6	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行2
7	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行3
8	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行4
9	数値を使ったプログラム1
10	数値を使ったプログラム2
11	数値を使ったプログラム3
12	数値を使ったプログラム4
13	文字列を使ったプログラム1
14	文字列を使ったプログラム2
15	文字列を使ったプログラム3
16	文字列を使ったプログラム4
17	文字列を使ったプログラム5
18	文字列を使ったプログラム6
19	IF文を使ったプログラム1
20	IF文を使ったプログラム2
21	IF文を使ったプログラム3
22	IF文を使ったプログラム4
23	IF文を使ったプログラム5
24	IF文を使ったプログラム6
25	IF文を使ったプログラム7
26	繰り返し処理を使ったプログラム1
27	繰り返し処理を使ったプログラム2
28	繰り返し処理を使ったプログラム3
29	繰り返し処理を使ったプログラム4
30	繰り返し処理を使ったプログラム5
31	配列を使ったプログラム1
32	配列を使ったプログラム2
33	配列を使ったプログラム3
34	配列を使ったプログラム4
35	配列を使ったプログラム5
36	配列を使ったプログラム6

【成績評価方法】

試験と課題。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

パソコンを用いて、実際に簡単なプログラムを作成しながら学ぶ。
 教員はjavaによる実務開発経験がある。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数的処理Ⅱ	佐藤 保幸	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

前期では1年時に学習した数的処理Ⅰに引き続き、数的処理の理解を深めていくことを目的とする。そして、数的処理の問題で正答率6割を目標に、点数の取り方を身に付けてもらいたい。後期では、財務諸表を読むようにする。「読める」と一口で言っても、単に電卓をたたいて数字を出すわけではない。財務諸表を通じて、社会を知ってもらうことが目標である。そのために、国内の世代別人口、諸外国の人口、将来価値と金利・利息、資産・負債、減価償却、年金・保険など、様々な数字を切り口に社会全体に目を向けてもらいたい。

【講義概要】

前期では、数的処理の数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の4分野を総合的に演習しながら理解を深めていく。さらに、各問題の難易度の見分け方や点数の取り方など、実戦的な訓練を行っていく。後期では、数的処理で学んだ、割合、利益計算、推論、最適化、資料解釈の手法を用いて、有名企業の財務諸表の分析を行う。財務諸表は読み方だけでなく、財務諸表には何が書かれていて、何がわかるのか、逆に数字からわからないことは何かを知ることも大事である。この作業を通じて、企業(会社)の客観的な評価の仕方を学んでもらう。広い意味で、「評価」とは何かを知る機会にもしたい。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

回	授業計画及び学習内容
1	数的推理復習と応用
2	数的推理復習と応用
3	数的推理演習
4	判断推理復習と応用
5	判断推理復習と応用
6	判断推理演習
7	空間把握復習と応用
8	空間把握演習
9	資料解釈復習と応用
10	資料解釈演習
11	これまでの総復習/前期中間テスト
12	数的処理演習
13	数的処理演習
14	数的処理演習
15	数的処理演習
16	これまでの総復習/前期期末テスト
17	数的処理直前演習
18	数的処理直前演習
19	お金とは/通貨/価値とは/市場
20	需要と供給、需給曲線/物価/GDPと景気/デフレ・インフレ
21	人口と労働/地価と不動産
22	経済主体(企業、家計、政府)/経済体制/アベノミクス
23	銀行の役割/信用/金利/ローンと複利計算/国債
24	消費と投資(投機と投資の違い)/後期中間テスト
25	会社とは/企業経営/原価率/売上と利益
26	営業活動とマーケティング/外部資本効果(借金・負債)のメリット・デメリット
27	財務諸表とは/BSとPLの構造と関係
28	複式簿記で記帳する。
29	有名企業の財務諸表を読む①
30	有名企業の財務諸表を読む②
31	財務諸表分析①
32	財務諸表分析②
33	財務諸表分析③
34	財務諸表分析④
35	後期期末テスト
36	会社の評価(良い会社とは何だろうか)

【成績評価方法】

成績は、中間テスト、期末テスト、レポートの提出、出席、授業態度等を総合的に勘案して決定する。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

前期の数的処理で情報の整理、数値計算、そして論理や推論の手法を学び、後期では数字を切り口に社会を見ていくのはかなり目新しい試みである。皆さんの積極的な参加を期待する。担当教員の専門は応用数学であり、数学の研究のみならず、統計学などのデータ分析、最適化、数理ファイナンスなどの門外漢から見ると高度な数学を、実務的に用いて仕事をすることも多い。社会に出てから使えることを主眼に置きつつ、応用数学の面白さも伝えていきたい。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数学Ⅱ	仲田まり子	6単位・108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

より実践的な解法・テクニックを使いこなせるようになる

【講義概要】

航空大学校・航空学生の受験に必要とされるレベルの数学を身につける

回	授業計画及び学習内容	
1	式と計算	三次関数の展開と因数分解①
2	三次関数の展開と因数分解②	
3	二項定理①	
4	二項定理②	
5	整式の割り算、分数式①	
6	整式の割り算、分数式②	
7	複素数と方程式	二次方程式の解と判別式①
8	二次方程式の解と判別式②	
9	解と係数の関係①	
10	解と係数の関係②	
11	解と係数の関係③	
12	解と係数の関係④	
13	剰余の定理と因数定理①	
14	剰余の定理と因数定理②	
15	剰余の定理と因数定理③	
16	剰余の定理と因数定理④	
17	高次方程式①	
18	高次方程式②	
19	三角関数	三角関数①
20	三角関数②	
21	三角関数③	
22	三角関数④	
23	加法定理①	
24	加法定理②	
25	加法定理③	
26	加法定理④	
27	指数関数①	
28	指数関数②	
29	対数関数①	
30	対数関数②	
31	微分①	
32	微分②	
33	積分①	
34	積分②	
35	ベクトルの内積、過去問演習①	
36	ベクトルの内積、過去問演習②	

【成績評価方法】

中間試験・期末試験・授業中の課題への取り組み方等を総合的に評価。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、高校課程の数学を復習しながら演習問題を解くことが中心となる。学生には「自分で考える」を意識するよう働きかけながら、必要であれば学生同士で「教え合い」ながら目標到達を目指す。担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	心理学	仲田まり子	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学的知見と理論を理解することから、自分自身を含めた人間への理解を深める

【講義概要】

人間の心の仕組み・心の働きを心理学知見と理論を通して解き明かす

回	授業計画及び学習内容
1	心理学の歴史・心の研究法
2	社会心理学とは
3	傍観者実験 ①
4	傍観者実験 ②
5	社会的促進実験 ①
6	社会的促進実験 ②
7	ホーソン実験 ①
8	ホーソン実験 ②
9	印象形成実験
10	つり橋実験
11	同調実験 ①
12	同調実験 ②
13	フットインザドア実験
14	認知的不協和実験 ①
15	認知的不協和実験 ②
16	模擬刑務所実験
17	アイヒマン実験
18	認知心理学 視覚の不思議

【成績評価方法】

中間試験・期末試験・出席。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

社会心理学初期の実験を通して、人間の行動とその背後にある「心」の関係を理解する。担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語リスニングII	高野美智子	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 650

【講義概要】

TOEIC公式問題集を使って、問題を解く。
dictationを行い、retantion を鍛える。
英会話テキストにそって、シャドーイングし、会話文を暗唱する。

回	授業計画及び学習内容
1	TOEIC 問題集(1) part 1 - 4 問題を解き、答合わせ。
2	TOEIC Part 1 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
3	TOEIC Part 2演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
4	↓
5	TOEIC Part 3 演習 → dictation、会話文のシャドーイング & 暗唱
6	↓
7	↓
8	↓
9	TOEIC Part 4 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
10	↓
11	↓
12	↓
13	TOEIC 問題集(2) part 1 - 4 問題を解き、答合わせ。
14	TOEIC Part 1 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
15	TOEIC Part 2演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
16	↓
17	TOEIC Part 3 演習 → dictation、会話文のシャドーイング & 暗唱
18	↓
19	↓
20	↓
21	TOEIC Part 4 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
22	↓
23	↓
24	↓
25	TOEIC 問題集(3) part 1 - 4 問題を解き、答合わせ。
26	TOEIC Part 1 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
27	TOEIC Part 2演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
28	↓
29	TOEIC Part 3 演習 → dictation、会話文のシャドーイング & 暗唱
30	↓
31	↓
32	TOEIC Part 4 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
33	↓
34	↓
35	↓
36	学年末テスト(TOEIC形式)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(文法)Ⅱ	高野美智子	3単位・54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 650

【講義概要】

1年次に学習した英文法の定着をはかる。
過去問演習を行い、一次試験の形式に慣れる。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	英文法総復習(演習問題1-2)
2	英文法総復習(演習問題3-4)
3	英文法総復習(演習問題5-6)
4	英文法総復習(演習問題7-8)
5	英文法総復習(演習問題9-10)
6	英文法 到達度テスト
7	航空大学校 過去問演習1
8	航空大学校 過去問演習2
9	航空大学校 過去問演習3
10	海上保安庁 過去問演習1
11	海上保安庁 過去問演習2
12	海上保安庁 過去問演習3
13	航空学生 過去問演習1
14	航空学生 過去問演習2
15	航空学生 過去問演習3
16	TOEIC Part 5 & 6 演習1
17	TOEIC Part 5 演習1の解説、Q & A
18	TOEIC Part 5 演習1の解説、Q & A
19	TOEIC Part 6 演習1の解説、Q& A
20	TOEIC Part 6 演習1の解説、Q& A
21	TOEIC Part 5 & 6 演習2
22	TOEIC Part 5 演習2の解説、Q & A
23	TOEIC Part 5 演習2の解説、Q & A
24	TOEIC Part 6 演習2の解説、Q& A
25	TOEIC Part 6 演習2の解説、Q& A
26	TOEIC Part 5 & 6 演習3
27	TOEIC Part 5 演習3の解説、Q & A
28	TOEIC Part 5 演習3の解説、Q & A
29	TOEIC Part 6 演習3の解説、Q& A
30	TOEIC Part 6 演習3の解説、Q& A
31	TOEIC Part 5 & 6 演習4
32	TOEIC Part 5 演習4の解説、Q & A
33	TOEIC Part 5 演習4の解説、Q & A
34	TOEIC Part 6 演習4の解説、Q& A
35	TOEIC Part 6 演習4の解説、Q& A
36	学年末テスト(TOEIC形式)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(リーディング)II	高野美智子	3単位・54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 650

【講義概要】

長く難易度の高い英文を速く、正確に読む練習をする。
過去問演習を行い、一次試験の形式に慣れる。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	英文読解演習
2	
3	
4	
5	
6	
7	航空大学校 過去問演習1
8	航空大学校 過去問演習2
9	航空大学校 過去問演習3
10	海上保安庁 過去問演習1
11	海上保安庁 過去問演習2
12	海上保安庁 過去問演習3
13	航空学生 過去問演習1
14	航空学生 過去問演習2
15	航空学生 過去問演習3
16	TOEIC Part 7 演習1
17	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q & A
18	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q & A
19	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q& A
20	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q& A
21	TOEIC Part 7 演習2
22	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
23	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
24	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
25	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
26	TOEIC Part7 演習3
27	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
28	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
29	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
30	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
31	TOEIC Part 7 演習4
32	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
33	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
34	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
35	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
36	学年末テスト(TOEIC形式)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	文章理解Ⅱ	堀切昌美	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

文章理解Ⅰを履修してきた学生であるので、本年度の公務員採用試験を突破することを目標とし授業を展開する。

【講義概要】

前期は、公務員試験本試験にむけて過去問題を中心に力をつけていく。後期は、主に、社会に出たときに恥ずかしくないような国語力を高める授業展開をする。

回	
1	文章合致問題を解く(1)
2	文章合致問題を解く(2)
3	趣旨把握問題を解く(1)
4	趣旨把握問題を解く(2)
5	空欄補充問題を解く(1)
6	空欄補充問題を解く(2)
7	文章整序問題を解く(1)
8	文章整序問題を解く(2)
9	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(1)
10	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(2)
11	国語問題 四字熟語・故事成語・ことわざ問題を解く
12	国語問題 慣用句・同音異字語、漢字問題を解く
13	国語問題 敬語・文法問題を解く(1)
14	国語問題 敬語・文法問題を解く(2)
15	過去問題に挑戦 (1)
16	過去問題に挑戦 (2)
17	過去問題に挑戦 (3)
18	中間試験 振り返り
19	新聞記事から考える(1)
20	新聞記事から考える(2)
21	新聞記事から考える(3)
22	本の紹介と要約(1)
23	本の紹介と要約(2)
24	本の紹介と要約(3)
25	グループディスカッション(1)
26	グループディスカッション(2)
27	グループディスカッション(3)
28	グループワーク(1)
29	グループワーク(2)
30	グループワーク(3)
31	グループワーク(4)
32	いろいろな文章に触れる 業界紙・雑誌(1)
33	いろいろな文章に触れる 業界紙・雑誌(2)
34	いろいろな文章に触れる 業界紙・雑誌(3)
35	定期試験 ふりかえり
36	まとめ

【成績評価方法】

前期試験(中間・期末テスト)、後期試験(中間・期末テスト)の平均得点から成績評価をする。グループワークなど授業への参加・意欲、提出物を加味する。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

演習を中心に、個別対応を多めに取って、弱点克服にあてる。効果的な読解方法については、講義形式で、正答率を上げる取り組みも適宜行なう。担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培った日本語の能力や社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあっている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	総合講座Ⅱ	堀切昌美	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

年二回実施される【ビジネス能力試験(ジョブパス)】3級の合格を目指す。

【講義概要】

就職活動の準備として、社会人としてのマナーやモラルを身につけるための学習を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	キャリアとは仕事へのアプローチ・身だしなみの基本
2	将来の自分。仕事への取り組み方
3	組織人としての重要な心構え・仕事の進め方
4	「お客様第一」主義・8つの意識
5	コミュニケーションとビジネスマナーの基本
6	指示の受け方と報告・連絡・相談
7	話し方と聞き方のポイント
8	尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分け
9	電話対応・来客対応と訪問の基本マナー
10	冠婚葬祭のマナー
11	仕事のマニュアル化
12	ビジネス文書の基本
13	統計データの作り方・読み方
14	情報収集とメディアの活用
15	会社数字の読み方
16	ネットワークと電子メールの活用
17	ビジネス用語
18	時事問題 その1
19	時事問題 その2
20	社会人としてのルールと企業倫理・コンプライアンスの重要性
21	情報収集のためのメモの取り方
22	ビジネス会話の特徴と目的
23	商談にあたっての心構え・基本行動
24	会議の基本的な流れ・議事録をまとめるポイント
25	人前で話す方法・話の構成
26	人前で話す実践編
27	プレゼンテーション(その1)
28	プレゼンテーション(その2)
29	プレゼンテーション(その3)
30	チームワークの意義と重要性
31	仕事に影響を及ぼす人間関係
32	問題発見と解決の方法
33	論理的思考法・分析の概念
34	報告書の書き方・企画書の書き方・社外文書
35	国際経済と日本経済
36	ビジネスの基本と法律

【成績評価方法】

各課題の節目ごとにペーパーでの小テストを実施。また前期・後期それぞれの試験の平均点、及び授業内の平常点を加味する。

検定試験合格を一つの基準とし、総合成績として評価する。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・社会生活の基礎としての自覚を持たせ、ビジネス用語や時事問題、社会状況の把握をさせる。
 ・担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培ったビジネスマナーや社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 パイロットコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ケーススタディ	瀬戸口 仁	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

公務員や社会人にふさわしい倫理・道徳観ならびに知識を身につける。

【講義概要】

行政や民間企業など実社会で働くためには、国民や利用者に奉仕する意識が欠かせないし、また様々の不祥事を絶対に起こさないという意識が必要である。そこで、この授業では、行政に関連するさまざまな問題や課題を確認したうえで、関連する法規や制度に依拠しつつ、それらの問題にどう対応すべきかを考えていく。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	公務員の不祥事対策 セクシャルハラスメント
3	公務員の不祥事対策 パワーハラスメント
4	どうすれば高齢者に社会保障制度を知ってもらえるか
5	男女共同参画社会をめざして
6	大規模水害対策
7	子どもの貧困対策
8	児童虐待対策
9	個人情報保護法を踏まえてどのように業務に取り組むか
10	特定秘密保護法を踏まえてどのように業務に取り組むか
11	マイナンバー制度について考える
12	前期中間試験
13	規制緩和の意義と問題点
14	憲法改正と国民投票法
15	討論の仕方(その1)
16	討論の仕方(その2)
17	前期期末試験
18	まとめ
19	後期ガイダンス
20	公務員の仕事の特徴 避難勧告を例に
21	公務員の仕事の特徴 海上保安庁を例に
22	公務員の仕事の特徴 警察を例に
23	公務員の仕事の特徴 租税や生活保護を例に
24	公務員の仕事の特徴 し尿処理を例に
25	公務員の仕事の特徴 ごみ処理を例に
26	性的犯罪に関する治安対策について
27	薬物規制について
28	タトゥーの是非
29	障害者の社会参加をめぐる話題
30	現代家族の形態
31	リスク社会をどう生きるか
32	表現の自由をめぐる問題(その1)
33	表現の自由をめぐる問題(その2)
34	混迷する世界情勢をどう生きるか
35	後期期末試験
36	まとめ

【成績評価方法】

試験、小テスト、授業態度、出席率によって総合的に評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・毎週、前週に話題となった時事問題を取り上げ、解説。各自の意見、感想を原稿用紙に書かせ、発表させる。なお、授業実施時点の社会情勢の変化に応じて、授業内容を適宜変更する。
・担当教員は、サンケイスポーツ新聞社で記者として11年間プロ野球を担当。メジャーリーグを始めとする4大プロスポーツ、オリンピック、ワールドカップ等を取材。のち、産経新聞で記者として1年間政治等を取材。そのほか、東北福祉大学等で講師を担当。全国で公演活動を展開。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	社会科学 I	杉谷武信	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- ・地方公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。
社会科学の範囲である、法律、政治、経済、社会の分野のうち重要な分野である政治、経済、社会をピックアップして学習を進め、社会科学の知識を深める。

【講義概要】

- ・政治や経済の仕組みを理解する。
政治…各国の政治制度、選挙制度、国際政治を中心に学習する
経済…ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学・経済史を中心に学習する
社会…社会保障、労働問題、環境問題、消費者問題を中心に学習する

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	政治 民主政治の基本原則と制度(その1)
3	政治 民主政治の基本原則と制度(その2)
4	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その1)
5	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その2)
6	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その3)
7	政治 日本国憲法の統治機構(その1)
8	政治 日本国憲法の統治機構(その2)
9	政治 日本国憲法の統治機構(その3)
10	政治 日本国憲法の統治機構(その4)
11	政治 政治の諸問題(その1)
12	前期 中間試験
13	政治 政治の諸問題(その2)
14	政治 政治の諸問題(その3)
15	政治 国際政治(その1)
16	政治 国際政治(その2)
17	前期 期末試験
18	政治 国政政治(その3)
19	経済 市場経済(その1)
20	経済 市場経済(その2)
21	経済 市場経済(その3)
22	経済 国民経済の流れ(その1)
23	経済 国民経済の流れ(その2)
24	経済 国民経済の流れ(その3)
25	経済 国民経済の流れ(その4)
26	後期 中間試験
27	経済 日本経済の発展(その1)
28	経済 日本経済の発展(その2)
29	経済 国際経済の動向と国際協力(その1)
30	経済 国際経済の動向と国際協力(その2)
31	社会 労働問題と消費者問題(その1)
32	社会 労働問題と消費者問題(その2)
33	社会 人口問題(その1)
34	社会 人口問題(その2)
35	後期 期末試験
36	社会 地球環境問題

【成績評価方法】

試験、小テスト、授業態度、出席率によって総合的に評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

- ・教科書を使用し、重点項目(「ポイント」「P」)となっているところを中心に、できるかぎり効率的な学習を行う。
- ・教科書の練習問題や過去問、オリジナル問題を解きながら、公務員や航空大学校等の一次試験合格をめざす。
- ・担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキル I	杉谷武信	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会人としての意識と、それを実践する行動、発言、姿勢を身に付ける。

【講義概要】

社会人に必要な、敬語や接遇用語の使い方、電話応対や接遇の仕方、ビジネス文書の作成など職場において必要とされるビジネススキルの基本を身につける。
学んだビジネスマナーを実践できるよう、講義に加えロールプレイングなども取り入れる。

回	授業計画及び学習内容
1	仕事に取り組む心構え／学生個人の把握(個人面接、SPIの実施)
2	
3	指示の受け方・報告の仕方、職場の人間関係構築について
4	
5	社会人としての基本動作とは
6	
7	社会人としての話し方、話の聞き方
8	
9	敬語の基本、間違いやすい敬語
10	
11	来客応対① 接遇とは、受付、名刺の扱い
12	
13	来客応対② 来客応対について
14	
15	訪問のマナー① 訪問時に気を付けること
16	
17	訪問のマナー② 訪問の実際・・・ロールプレイング
18	
19	電話応対① 電話応対の注意点、受け方・かけ方の基本
20	
21	電話応対② 電話応対の具体例・・・ロールプレイング
22	
23	電話応対③ クレーム電話等の対応、携帯電話・・・ロールプレイング
24	
25	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 冠
26	
27	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 婚
28	
29	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 葬
30	
31	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 祭
32	
33	ビジネス文書における注意事項
34	
35	ファイリングのコツとは
36	

【成績評価方法】

成績は出席商況、提出物、授業態度等を総合的に勘案して決定する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

1. 学生個人の把握(個人面接等の徹底)・・・前・後期
2. 学生生活ならびに就職活動の指導・・・前・後期
3. 伝達事項・・・前・後期

※常に言葉使い等の礼儀を指導する。担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	総合講座 I	阿部 誠一	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

<目的・概要>

航空無線通信士の無線工学の試験内容に関しその基礎的知識を習得する。

<達成目標>

無線工学の基礎的問題を解けるとともに応用問題を理解するための電気の基礎知識を習得する。

【講義概要】

第1章 電波の性質

電波の発生、基本的性質、波長と周波数、電波の分類と利用状況等

第2章 電気磁気

電界の基本法則、磁界の基本法則、電流の磁気作用等

第3章 電気回路

電流、電圧、電力、直流及び交流、直流回路、交流回路、回路素子、導体および半導体フィルタ等

第4章 半導体及び電子管

半導体、集積回路、マイクロ波用電力増幅半導体素子、マイクロ波用電力増幅電子管

回	授業計画及び学習内容	
1	第1章 電波の性質	1. 電波の発生 2. 基本性質 3. 電波の偏波
2		4. 真空の固有インピーダンス 5. 電波のエネルギー
3		6. 波長と周波数 7. 電波の分類と利用状況
4		演習問題・既出問題演習
5	第2章 電気磁気	1. 電界の基本法則 1-1 静電誘導 1-2 静電界
6		1-3 静電容量とコンデンサ 演習
7		2. 磁界の基本法則 2-1 磁石 2-2 磁界
8		3. 電流の磁気作用 1, 2 右ねじと左手の法則
9		3-3 電磁誘導
10		3-4 フレミングの右手の法則
11		演習問題・既出問題演習
12	第3章 電気回路	1. 電流 2. 電圧
13		3. 電力
14		4. 直流及び交流 4-1 直流
15		4-2 交流
16		5. 回路素子 5-1 抵抗とオームの法則
17		直流回路演習
18		5-2 コンデンサ
19		5-3 コイル 交流回路演習
20		交流回路演習
21		6. 導体、絶縁体及び半導体
22		7. フィルタ 7-1 概要 7-2 低域通過フィルタ
23		7-3 広域通過フィルタ 7-4 帯域通過フィルタ
24	第4章 半導体及び電子管	1. 半導体 1-1 半導体とその性質
25		1-2 N型半導体とP型半導体
26		1-3 ダイオード
27		演習問題・既出問題演習
28		1-4 トランジスタ 1-4-1 バイポーラトランジスタ
29		1-4-1 バイポーラトランジスタ基本回路
30		1-4-2 電界効果トランジスタ
31		演習問題・既出問題演習
32		2. 集積回路
33		3. マイクロ波用電力増幅半導体素子
34		4. マイクロ波用電力増幅電子管 4-1 概要
35		4-2 進行波管
36		演習問題・既出問題演習

【成績評価方法】

方法：定期試験の成績、出席状況、授業態度、国家試験に対する積極性など総合的に評価する。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

特徴：市販の航空無線通信士養成課程用テキストを中心に演習問題を与え学生自ら調べ解答させ習得させる。

無線技術士や電気通信工事担任者等の資格対策教育を40年以上行ってきた経験をもとに、理解すべき事項と暗記すべき事項を明確にし、問題解答能力を養う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	航空無線	阿部鍼一	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

<目的・概要>

航空無線通信士国家試験のための電波法規について学ぶ。

<達成目標>

航空無線通信士国家試験の問題を理解し解答できる実力をつけることを目標とする。

【講義概要】

市販のテキスト(航空無線通信士用法規)を使用して、毎回、法令の名称別の規定に関する演習問題(既出問題)を与え各自で調べ解答させた後、正解と解説を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	第1章 電波法の目的 1. 目的 2. 概要 3. 用語の定義等
2	第2章 無線局の免許 1. 無線局の開設
3	2. 免許の有効期間 3. 免許状の記載事項等
4	3. 免許の承継 4. 免許の特例 5. 無線局の廃止
5	第3章 無線設備 1. 電波の質 2. 電波の形式等の表示
6	3. 送信装置 4. 受信装置 5. 送受信空中線
7	6. 安全施設 7. 保護装置 8. 周波数測定装置の備付
8	10. 航空機用救命無線機～12. 衛星通信設備
9	13. 無線航行設備
10	14. その他の無線設備
11	第4章 無線従事者 1. 資格制度 2. 無線設備の操作等の範囲
12	3. 免許 4. 携帯義務 5. 免許証の再交付、返納
13	第5章 運用 1. 一般 1-1通則(1-1-1～1-1-2)
14	1-1-通則(1-1-3～1-1-7)
15	1-2一般通信方法(1-2-1～1-2-5)
16	1-2一般通信方法(1-2-6～1-2-11)
17	2. 海上移動業務等 2-1通則
18	2-2通信方法(2-2-1～2-2-3)
19	(2-2-4～2-2-8)
20	2-2-8～2-2-12)
21	2-3遭難通信(2-3-1～2-3-2-6)
22	(2-3-2-7～10)
23	(2-3-2-11～16)
24	2-4緊急通信
25	2-5安全通信～3固定業務等
26	第6章 業務書類 1. 時計 2. 業務書類(2-1～2-2)
27	2. 業務書類(2-3～2-4)
28	第7章 監督 1. 技術基準適合命令 2. 電波の発射の停止
29	3. 無線局の検査～6. 遭難通信を行った場合等の報告
30	第8章 罰則等 1. 手数料の納付～3. 罰則
31	第9章 関係法令
32	第10章 国際法規 1. 国際電気通信連合憲章等
33	2. 国際電気通信連合憲章に規定する無線通信規則(1～3)
34	2. 国際電気通信連合憲章に規定する無線通信規則(4～8)
35	3. 国際電気通信連合憲章に規定する国際電気通信規則の概要
36	4. 国際民間航空条約の概要 5. その他の国際条約

【成績評価方法】

方法: 定期テストの成績、出席状況、授業態度、国家試験に対する積極性等を総合的に評価する。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

特徴: 市販の航空無線通信士養成課程用テキストを中心に演習問題を与え学生自ら調べ解答させ習得させる。
無線技術士や電気通信工事担任者等の資格対策教育を40年以上行ってきた経験をもとに、理解すべき事項と暗記すべき事項を明確にし、問題解答能力を養う。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	フライトシミュレーション I	長野昭一・黒羽則和	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。

【講義概要】

フライトシミュレーションを使った操縦技術を身に付けながら、飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。

新たな知識・技術を少しずつ身に付けながら、それまでに学んだ操縦技術を繰り返し、経験を重ねる。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	学習ガイダンス/シミュレータについて
2	計器出発方式
3	
4	↓
5	直線水平飛行
6	
7	↓
8	水平線旋回
9	
10	↓
11	空中操作旋回バンク(20°)
12	
13	空中操作旋回バンク(30°)
14	
15	空中操作旋回バンク(45°)
16	
17	前期総合操作演習
18	

19	ストール(失速)
20	↓
21	スローフライト
22	
23	↓
24	計器進入方式
25	
26	↓
27	トラフィックパターン
28	
29	↓
30	ハンガー前ストップ
31	
32	↓
33	トータル操縦演習
34	
35	↓
36	

【成績評価方法】

操縦に関する各PHASEでの総合評価。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

航空機の模擬操作を通じ、パイロットとしての基本を習得するとともに、社会人としての総合能力のレベルアップを図る。会話形式で一般常識の学習や過去の事例研究を行っている。担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	情報科学 I	新井愛美	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基礎知識を広く学習し、情報の概要を身に付ける。
就職後、会社等で使用するパソコン業務をスムーズに行えるようにすることを目標とする。

【講義概要】

前期は一般的に使用されているアプリケーション (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作をマスターする。
後期は前期に行ったことを踏まえ、応用力を付けて実務で役立つようにする。

回	授業計画及び学習内容
1	授業説明、フォルダ構成、文字入力など
2	Word 基本機能
3	Word 表作成
4	Word 図形の作成
5	Word 基本総合
6	Word テスト
7	Excel 基本機能
8	Excel 計算式・関数
9	Excel グラフ
10	Excel 絶対参照
11	Excel 基本総合
12	Excel テスト
13	PowerPoint 基本機能
14	PowerPoint プレゼン資料作成
15	PowerPoint プレゼン
16	Word応用 DTPとは
17	Word応用 チラシ作成
18	Word応用 チラシ作成
19	Word応用 チラシ課題制作
20	Excel応用 3D集計、シートの編集
21	Excel応用 個数の関数、順位関数
22	Excel応用 データベース
23	Excel応用 IF関数1
24	Excel応用 IF関数2
25	Excel応用 IF関数3
26	Excel応用 倫理関数
27	Excel応用 VLOOKUP関数
28	Excel応用 条件付き書式、シートの保護、その他便利な機能
29	Excel応用 総合問題2
30	HTML & CSS Webページ作成1
31	HTML & CSS Webページ作成2
32	HTML & CSS Webページ作成3
33	HTML & CSS Webページ作成4
34	情報概論、情報社会のモラル、知的財産権
35	テスト
36	テスト返却とまとめ

【成績評価方法】

出席状況、中間テスト、期末テスト。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

社会人に必要なアプリケーションを用いて、対話形式で授業を行う。担当教員は専門学校において情報分野で十分な教育経験を有す。過去、企業研修や大学講座を担当した経験あり。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数的処理 I	佐藤 保幸	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

各種航空関係試験で出題割合の多い、数的処理の問題がどのようなものかを知り、解けるようにすることが目標である。本講義では数的処理の問題をテーマごとに分類し、論点とその解法を身につける。文章理解、数学、自然科学と重複、関連することが多い。両輪となって理解できるとよい。

【講義概要】

数的処理とは、文章や資料を読み、表な図を書きながら情報を整理し、数学の知識を用いて問題を解く、知能系の科目である。航空試験のみならず、就職試験でも類似の問題が出題され、数的処理自体が、受験者の知能を測定するツールとして定番化しており、情報処理能力を測るツールとしても扱われている。数的処理と聞くと数学と勘違いしている学生が散見されるが、数学とは異なる。勿論、必要最低限の数学を使いはするが、文章をしっかりと正確に読む「読解力」が強く要求される科目であり、文章の読み方などに焦点を当てて講義をしていく。

回 授業計画及び学習内容

1	計算/方程式の基礎
2	文章題(連立方程式, 不等式, 不定方程式)
3	文章題(比と割合, 濃度, 損益算)
4	速さ(速さの3要素, 旅人算, 周回算, 時計算, ダイアグラム)
5	速さ(流水算, 通過算, 仕事算, ニュートン算)
6	整数問題(約数・倍数, 素数, 剰余)
7	整数問題(規則性, 数列, 虫食い・覆面算, 魔法陣)
8	場合の数
9	確率
10	平面図形(三角形, 多角形, 円)
11	これまでの総復習/前期中間テスト
12	集合(ベン図, カルノー表・キャロル表, 線分図)
13	論理(全称命題と存在命題, ベン図, 真偽表など)
14	対応関係
15	試合(総当たり戦, 対戦日程, トーナメント戦)
16	これまでの総復習/前期期末テスト
17	順序関係(順位, 数量)
18	位置関係(方位, 部屋割り, 座席表)
19	数量推理/操作手順
20	証言推理
21	立体図形の基礎/正多面体とその展開図
22	立体の切断/スライス法
23	投影図/位相図
24	これまでの総復習/後期中間テスト
25	サイコロと五面図/平面パズル
26	軌跡
27	回転体/円盤の回転
28	資料解釈の基礎/実数の表
29	構成比/割合
30	指数
31	対前年増加率
32	これまでの総復習/後期期末テスト
33	相関図
34	様々な資料
35	最適化(線形計画法, PERT法)
36	その他

【成績評価方法】

成績は、中間テスト、期末テスト、出席、授業態度等を総合的に勘案して決定する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

「わかった！」は当然大事なことである。しかし、最も大事なことは「できる」ようになることである。そこで、講師オリジナルのレジュメで基礎を学び、演習書で演習する、という形式を取る。そのために、問題を数多く解き、繰り返し反復する。これは、各自が歯を食いしばって行わなければならない。
担当教員の専門は応用数学(数理物理学)だが、数学の応用範囲は幅広く、自ずと専門対象も幅広く扱っている。実務的な応用例を紹介しながら、難しいことをかみ砕いてわかりやすく伝えていきたい。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	自然科学 I	笹 茂夫	6単位・108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

<目的・概要>

物理の基本である力学とエネルギーの理解をしたうえで、電磁気の基礎を扱う。

<達成目標>

航空大学入試問題のうち、力学分野の基本問題が解けるようになることを目標とする。

【講義概要】

力学の分野である落下運動、力のつりあい、運動の法則、力学的エネルギーおよび電磁気学の分野である電場と電位について学習する。

回	授業計画及び学習内容
1	物理の基礎練習 指数 有効数字他
2	I・物体の運動 概要説明
3	1・等速直線運動
4	2・変位と速度
5	3・速度の合成と分解
6	4・相対速度
7	II・落下速度 概要説明
8	1・自由落下
9	2・鉛直投げおろし 鉛直投げ上げ
10	3・水平投射
11	4・斜方投射
12	III・力のつりあい 概要説明
13	1・重力
14	2・糸の張力 弾性力
15	3・力の合成と分解と力のつりあい
16	4・圧力と浮力
17	IV・運動の法則 概要説明
18	1・慣性の法則
19	2・運動の法則
20	3・作用反作用の法則
21	4・静止摩擦力 動摩擦力 空気抵抗
22	5・運動方程式
23	V・剛体に働く力 概要説明
24	1・力のモーメント
25	2・剛体に働く力の合成
26	3・剛体のつりあい
27	VI・力学的エネルギー
28	1・仕事の原理
29	2・仕事率
30	3・運動エネルギー 位置エネルギー
31	4・力学的エネルギー保存の法則
32	VII・電場と電位
33	1・電荷と静電気力
34	2・電場と静電気力
35	3・電位と電位差
36	4・静電誘導と誘電分極

【成績評価方法】

中間・期末テスト、課題提出、小テスト、出席率を総合的に勘案して評価を行う。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義に合わせた演習を毎回行う。担当教員は専門学校において電気物理分野で十分な教育経験を有する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数学 I	仲田まり子	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

高校で学んだ数 I・A・II の基礎レベルの問題を理解し確実に解けるようになる

【講義概要】

航空大学校、航空学生等の受験に必要とされるレベルの数学の問題を解くための土台作りをする

回	授業計画及び学習内容
1	授業の進め方についてのガイダンス・プレースメントテスト
2	数と式 複雑な式の展開
3	因数分解 ①
4	因数分解 ②
5	実数
6	式の値①
7	式の値②
8	一次不等式
9	二次関数 関数とグラフ ①
10	関数とグラフ ②
11	二次関数の最大最小 ①
12	二次関数の最大最小 ②
13	二次方程式 ①
14	二次方程式 ②
15	グラフとX軸の位置関係 ①
16	グラフとX軸の位置関係 ②
17	二次不等式
18	図形と計量 三角比の基礎
19	三角比の拡張
20	正弦定理と余弦定理 ①
21	正弦定理と余弦定理 ②
22	正弦定理と余弦定理 ③
23	三角形の面積、空間図形 ①
24	三角形の面積、空間図形 ②
25	図形の性質 三角形の外心、内心、重心 ①
26	三角形の外心、内心、重心 ②
27	三角形の色々な性質 ①
28	三角形の色々な性質 ②
29	円の基本性質
30	円と直線 ①
31	円と直線 ②
32	空間図形
33	整数の性質 約数と倍数 ①
34	約数と倍数 ②
35	整数の性質の活用 ①
36	整数の性質の活用 ②

【成績評価方法】

中間試験・期末試験・授業中の課題への取り組み方等を総合的に評価。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、高校課程の数学を復習しながら演習問題を解くことが中心となる。
学生には「自分で考える」を意識するよう働きかけながら、必要であれば学生同士で「教え合い」ながら目標到達を目指す。担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語リスニング I	高野美智子	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 550

【講義概要】

リスニングテキストにそって、TOEICの問題に挑戦する。Dictationとシャドーイングを行い、リテンションを鍛える。

回	授業計画及び学習内容
1	TOEIC Part 1 演習 → dictaion & シャドーイング
2	
3	短い文章に区切って読む
4	記事を読んでタイトルをつける
5	短い文章単位でリスニング
6	キーワードから大意を把握
7	
8	前期中間試験(TOEIC形式)
9	試験結果の確認と復習
10	TOEIC Part 2 演習 → dictaion & シャドーイング
11	
12	映画のタイトルをつける
13	ことわざを含む会話のリスニング
14	背景知識を使ってニュースを読む
15	コラムを段落ごとにリーディング
16	
17	前期期末試験(TOEIC形式)
18	試験結果の確認と復習
19	TOEIC Part 3 演習 → dictation & シャドーイング
20	
21	音の同化と連結を聞き取る
22	やや長めの文章単位で読む
23	地図を見ながらリスニング
24	文章を読んで答えを探す練習1
25	
26	後期中間試験(TOEIC形式)
27	試験結果の確認と復習
28	TOEIC Part 4 演習 → dictaion & シャドーイング
29	
30	文全体のテーマを把握
31	広告を読んで好みを探そう
32	テーマを把握してリスニング
33	文章を読んで答えを探す練習2
34	
35	後期期末試験(TOEIC形式)
36	試験結果の確認と復習

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(文法)I	高野美智子	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 550

【講義概要】

高校で学習する英文法の総復習を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	英文法(5文型)
2	英文法(会話文で使う疑問詞)
3	英文法(品詞 1:動詞、形容詞、副詞、名詞)
4	英文法(品詞 2:動詞、形容詞、副詞、名詞)
5	英文法(自動詞と他動詞)
6	英文法(不定詞1)
7	英文法(不定詞2)
8	英文法(動名詞1)
9	英文法(動名詞2)
10	英文法(使役動詞)
11	英文法(知覚動詞)
12	英文法(受動態)
13	英文法(仮定法1)
14	英文法(仮定法2)
15	英文法(不定代名詞)
16	英文法(関係詞1)
17	英文法(関係詞2)
18	英文法(関係詞3)
19	英文法(比較1)
20	英文法(比較2)
21	英文法(比較3)
22	英文法(分詞)
23	英文法(分詞構文)
24	まとめのテスト
25	英文法(接続詞)
26	英文法(呼応)
27	英文法(前置詞)
28	英文法(時制)
29	英文法(助動詞)
30	英文法(付加疑問文)
31	英文法(熟語1)
32	英文法(熟語2)
33	英文法(会話表現1)
34	英文法(会話表現2)
35	英文法(会話表現3)
36	学年末テスト

【成績評価方法】

・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(リーディング)I	高野美智子	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 550

【講義概要】

速読用英語長文を用いて、TOEICで必要な速読のスキルを向上させる。

回	授業計画及び学習内容
1	TOEIC Part7のスコアアップ1 時間配分を正しく行う／よく出るフレーズを覚える
2	TOEIC Part7のスコアアップ2 解答中の集中力を維持する／知らない単語が出たときの対処法
3	TOEIC Part7のスコアアップ3 ダブルパッセージの「欄外の出来事」
4	TOEIC Part7の解き方1 シングルパッセージの解き方
5	
6	TOEIC Part7の解き方2 ダブルパッセージの解き方
7	
8	TOEIC Part7の解き方3 トリプルパッセージの解き方
9	
10	文章ジャンル別の攻略1 E-mail (Eメール)
11	
12	文章ジャンル別の攻略2 article (記事)
13	
14	文章ジャンル別の攻略3 Web page (webページ)
15	
16	文章ジャンル別の攻略4 advertisement (広告)
17	
18	前期中間試験(長文読解問題)
19	前期復習(試験解答解説含む)
20	文章ジャンル別の攻略5 notice (告知)
21	
22	文章ジャンル別の攻略6 letter (手紙)
23	
24	文章ジャンル別の攻略7 text message chain (チャット)
25	
26	文章ジャンル別の攻略8 online chat discussion (オンラインチャット)
27	
28	問題形式別ポイント1 内容把握問題
29	問題形式別ポイント2 選択肢検証問題
30	問題形式別ポイント3 推測問題
31	問題形式別ポイント4 テーマ把握問題
32	問題形式別ポイント5 語彙問題
33	問題形式別ポイント6 書き手の意図問題
34	問題形式別ポイント7 文挿入問題
35	後期期末試験(長文読解)
36	後期復習(試験解答解説含む)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	社会科学Ⅱ	杉谷武信	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

・地方公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。

【講義概要】

・政治や経済の仕組みを理解する。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	ガイダンス
2	社会 社会保障制度のあゆみ(その1)
3	社会 社会保障制度のあゆみ(その2)
4	社会 医療問題
5	社会 環境問題・公害問題
6	問題演習(その1)
7	問題演習(その2)
8	問題演習(その3)
9	問題演習(その4)
10	問題演習(その5)
11	問題演習(その6)
12	前期中間試験
13	まとめ
14	問題演習(その7)
15	問題演習(その8)
16	問題演習(その9)
17	前期期末試験
18	まとめ
19	自我の発達過程
20	医療事情
21	社会科学の歴史 合理論と経験論(その1)
22	社会科学の歴史 合理論と経験論(その2)
23	社会科学の歴史 ルネサンスと宗教改革(その1)
24	社会科学の歴史 ルネサンスと宗教改革(その2)
25	メディアの使い方 メディアリテラシーとクリティカルシンキング
26	後期中間試験
27	まとめ
28	日本的経営慣行(その1)
29	日本的経営慣行(その2)
30	日本の食文化
31	スポーツからわかる社会事情
32	人口減社会をめぐる課題
33	国家戦略特区をめぐる問題
34	介護をめぐる課題
35	後期期末試験
36	まとめ

【成績評価方法】

試験、小テスト、授業態度、出席率によって総合的に評価する。

評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・1学年の学習を踏まえて、教科書の練習問題や過去問、オリジナル問題を解きながら、公務員や航空大学校等の一次試験合格をめざす。

・あわせて教科書を使用して、重点項目(「ポイント」「P)」となっているところを中心に、知識の確認・補強を行う。

・後期については、教科書を用いながら、社会科学の歴史や時事を学び、専門学校生や社会人にふさわしい社会科学の知識を身につけていく。

・担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキルⅡ	杉谷武信	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会に出て、即通用するような人材を育成する。

【講義概要】

社会人に必要な、敬語や接遇用語の使い方、電話応対や接遇の仕方、ビジネス文書の作成など職場において必要とされるビジネススキルの基本を身につける。
学んだビジネスマナーを実践できるよう、講義に加えロールプレイングなども取り入れる。

回	授業計画及び学習内容
1	仕事に取り組む心構え／学生個人の把握(個人面接、SPIの実施)
2	
3	指示の受け方・報告の仕方、職場の人間関係構築について
4	
5	社会人としての基本動作とは
6	
7	社会人としての話し方、話の聞き方
8	
9	敬語の基本、間違いやすい敬語
10	
11	来客応対① 接遇とは、受付、名刺の扱い
12	
13	来客応対② 来客応対について
14	
15	訪問のマナー① 訪問時に気を付けること
16	
17	訪問のマナー② 訪問の実際・・・ロールプレイング
18	
19	電話応対① 電話応対の注意点、受け方・かけ方の基本
20	
21	電話応対② 電話応対の具体例・・・ロールプレイング
22	
23	電話応対③ クレーム電話等の対応、携帯電話・・・ロールプレイング
24	
25	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 冠
26	
27	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 婚
28	
29	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 葬
30	
31	冠婚葬祭(人生の節目の祝、季節の行事) 祭
32	
33	ビジネス文書における注意事項
34	
35	ファイリングのコツとは
36	

【成績評価方法】

授業態度と出席状況。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

1. 学生個人の把握(個人面接等の徹底)・・・前・後期
2. 学生生活ならびに就職活動の指導・・・前・後期
3. 伝達事項・・・前・後期

※常に言葉使い等の礼儀を指導する。担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	自然科学Ⅱ	高橋市郎	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学入試問題、海上保安学校学生採用試験問題等のうち、物理学分野(特に力学、電磁気および波動)の問題を解けるようにする。

【講義概要】

力学、電磁気、波動の基礎と応用的内容を扱い、基礎理論を習得した後、航空大学、海上保安学校等の既出入試問題演習を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	コンデンサ(1)
2	コンデンサ(2)
3	電流と磁場(1)
4	電流と磁場(2)
5	電磁誘導(1)
6	電磁誘導(2)
7	運動量と力積(1)
8	運動量と力積(2)
9	円運動・単振動(1)
10	円運動・単振動(2)
11	波動(1)
12	波動(2)
13	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(1)
14	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(2)
15	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(3)
16	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(4)
17	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(5)
18	航空大学、海上保安学校過去入試問題演習(6)

【成績評価方法】

中間・期末試験、課題提出、小テスト、授業への取り組み、出席を総合的に勘案し評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

物理現象・理論の解説、例題解説と演習を基本とする。
担当教員は専門学校において電気物理分野で十分な教育経験を有し、また大学において電気電子工学実験指導の経験を有す。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	フライトシミュレーションⅡ	長野昭一・黒羽則和	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。

【講義概要】

安定した飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	学習ガイダンス/シミュレータについて
2	計器出発方式
3	
4	↓
5	直線水平飛行
6	
7	↓
8	水平線旋回
9	
10	↓
11	空中操作旋回バンク(20°)
12	
13	空中操作旋回バンク(30°)
14	
15	空中操作旋回バンク(45°)
16	
17	前期総合操作演習
18	

19	ストール(失速)
20	↓
21	スローフライト
22	
23	↓
24	計器進入方式
25	
26	↓
27	トラフィックパターン
28	
29	↓
30	ハンガー前ストップ
31	
32	↓
33	トータル操縦演習
34	
35	↓
36	

【成績評価方法】

操縦に関する各PHASEでの総合評価とする。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

航空機の模擬操作を通じ、パイロットとしての基本を習得するとともに、社会人としての総合能力のレベルアップを図る。会話形式で一般常識の学習や過去の事例研究を行っている。担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	情報科学Ⅱ	波多野将明	2単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報機器を動かしているプログラムの基本的な動作を学ぶ。
 プログラミングとはどのようなものか知る。
 情報セキュリティの重要性を理解する。
 java言語を用い簡単なプログラムを作成実行できるようになる。

【講義概要】

情報機器の動作原理を知る。
 コンピュータで実践しながらプログラミングについて学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	ファイルシステム1 フォルダの作成 移動1
2	ファイルシステム2 フォルダの移動2 名前変更
3	エディターの使い方1
4	エディターの使い方2
5	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行1
6	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行2
7	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行3
8	簡単なプログラム作成とコンパイル、実行4
9	数値を使ったプログラム1
10	数値を使ったプログラム2
11	数値を使ったプログラム3
12	数値を使ったプログラム4
13	文字列を使ったプログラム1
14	文字列を使ったプログラム2
15	文字列を使ったプログラム3
16	文字列を使ったプログラム4
17	文字列を使ったプログラム5
18	文字列を使ったプログラム6
19	IF文を使ったプログラム1
20	IF文を使ったプログラム2
21	IF文を使ったプログラム3
22	IF文を使ったプログラム4
23	IF文を使ったプログラム5
24	IF文を使ったプログラム6
25	IF文を使ったプログラム7
26	繰り返し処理を使ったプログラム1
27	繰り返し処理を使ったプログラム2
28	繰り返し処理を使ったプログラム3
29	繰り返し処理を使ったプログラム4
30	繰り返し処理を使ったプログラム5
31	配列を使ったプログラム1
32	配列を使ったプログラム2
33	配列を使ったプログラム3
34	配列を使ったプログラム4
35	配列を使ったプログラム5
36	配列を使ったプログラム6

【成績評価方法】

試験と課題。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

パソコンを用いて、実際に簡単なプログラムを作成しながら学ぶ。
 教員はjavaによる実務開発経験がある。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数的処理Ⅱ	佐藤 保幸	8単位・144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

前期では1年時に学習した数的処理Ⅰに引き続き、数的処理の理解を深めていくことを目的とする。そして、数的処理の問題で正答率6割を目標に、点数の取り方を身に付けてもらいたい。後期では、財務諸表を読めるようにする。「読める」と一口で言っても、単に電卓をたたいて数字を出すわけではない。財務諸表を通じて、社会を知ってもらうことが目標である。そのために、国内の世代別人口、諸外国の人口、将来価値と金利・利息、資産・負債、減価償却、年金・保険など、様々な数字を切り口に社会全体に目を向けてもらいたい。

【講義概要】

前期では、数的処理の数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の4分野を総合的に演習しながら理解を深めていく。さらに、各問題の難易度の見分け方や点数の取り方など、実戦的な訓練を行っていく。後期では、数的処理で学んだ、割合、利益計算、推論、最適化、資料解釈の手法を用いて、有名企業の財務諸表の分析を行う。財務諸表は読み方だけでなく、財務諸表には何が書かれていて、何がわかるのか、逆に数字からわからないことは何かを知ることも大事である。この作業を通じて、企業(会社)の客観的な評価の仕方を学んでもらう。広い意味で、「評価」とは何かを知る機会にもしたい。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

回	授業計画及び学習内容
1	数的推理復習と応用
2	数的推理復習と応用
3	数的推理演習
4	判断推理復習と応用
5	判断推理復習と応用
6	判断推理演習
7	空間把握復習と応用
8	空間把握演習
9	資料解釈復習と応用
10	資料解釈演習
11	これまでの総復習/前期中間テスト
12	数的処理演習
13	数的処理演習
14	数的処理演習
15	数的処理演習
16	これまでの総復習/前期期末テスト
17	数的処理直前演習
18	数的処理直前演習
19	お金とは/通貨/価値とは/市場
20	需要と供給、需給曲線/物価/GDPと景気/デフレ・インフレ
21	人口と労働/地価と不動産
22	経済主体(企業、家計、政府)/経済体制/アベノミクス
23	銀行の役割/信用/金利/ローンと複利計算/国債
24	消費と投資(投機と投資の違い)/後期中間テスト
25	会社とは/企業経営/原価率/売上と利益
26	営業活動とマーケティング/外部資本効果(借金・負債)のメリット・デメリット
27	財務諸表とは/BSとPLの構造と関係
28	複式簿記で記帳する。
29	有名企業の財務諸表を読む①
30	有名企業の財務諸表を読む②
31	財務諸表分析①
32	財務諸表分析②
33	財務諸表分析③
34	財務諸表分析④
35	後期期末テスト
36	会社の評価(良い会社とは何だろうか)

【成績評価方法】

成績は、中間テスト、期末テスト、レポートの提出、出席、授業態度等を総合的に勘案して決定する。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

前期の数的処理で情報の整理、数値計算、そして論理や推論の手法を学び、後期では数字を切り口に社会を見ていくのはかなり目新しい試みである。皆さんの積極的な参加を期待する。担当教員の専門は応用数学であり、数学の研究のみならず、統計学などのデータ分析、最適化、数理ファイナンスなどの門外漢から見ると高度な数学を、実務的に用いて仕事をすることも多い。社会に出てから使えることを主眼に置きつつ、応用数学の面白さも伝えていきたい。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	数学Ⅱ	仲田まり子	6単位・108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

より実践的な解法・テクニックを使いこなせるようになる

【講義概要】

航空大学校・航空学生の受験に必要とされるレベルの数学を身につける

回	授業計画及び学習内容	
1	式と計算	三次関数の展開と因数分解①
2	三次関数の展開と因数分解②	
3	二項定理①	
4	二項定理②	
5	整式の割り算、分数式①	
6	整式の割り算、分数式②	
7	複素数と方程式	二次方程式の解と判別式①
8	二次方程式の解と判別式②	
9	解と係数の関係①	
10	解と係数の関係②	
11	解と係数の関係③	
12	解と係数の関係④	
13	剰余の定理と因数定理①	
14	剰余の定理と因数定理②	
15	剰余の定理と因数定理③	
16	剰余の定理と因数定理④	
17	高次方程式①	
18	高次方程式②	
19	三角関数	三角関数①
20	三角関数②	
21	三角関数③	
22	三角関数④	
23	加法定理①	
24	加法定理②	
25	加法定理③	
26	加法定理④	
27	指数関数①	
28	指数関数②	
29	対数関数①	
30	対数関数②	
31	微分①	
32	微分②	
33	積分①	
34	積分②	
35	ベクトルの内積、過去問演習①	
36	ベクトルの内積、過去問演習②	

【成績評価方法】

中間試験・期末試験・授業中の課題への取り組み方等を総合的に評価。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、高校課程の数学を復習しながら演習問題を解くことが中心となる。学生には「自分で考える」を意識するよう働きかけながら、必要であれば学生同士で「教え合い」ながら目標到達を目指す。担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	心理学	仲田まり子	2単位・36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

心理学的知見と理論を理解することから、自分自身を含めた人間への理解を深める

【講義概要】

人間の心の仕組み・心の働きを心理学知見と理論を通して解き明かす

回	授業計画及び学習内容
1	心理学の歴史・心の研究法
2	社会心理学とは
3	傍観者実験 ①
4	傍観者実験 ②
5	社会的促進実験 ①
6	社会的促進実験 ②
7	ホーソン実験 ①
8	ホーソン実験 ②
9	印象形成実験
10	つり橋実験
11	同調実験 ①
12	同調実験 ②
13	フットインザドア実験
14	認知的不協和実験 ①
15	認知的不協和実験 ②
16	模擬刑務所実験
17	アイヒマン実験
18	認知心理学 視覚の不思議

【成績評価方法】

中間試験・期末試験・出席。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

社会心理学初期の実験を通して、人間の行動とその背後にある「心」の関係を理解する。担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語リスニングII	高野美智子	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 650

【講義概要】

TOEIC公式問題集を使って、問題を解く。
dictationを行い、retantion を鍛える。
英会話テキストにそって、シャドーイングし、会話文を暗唱する。

回	授業計画及び学習内容
1	TOEIC 問題集(1) part 1 - 4 問題を解き、答合わせ。
2	TOEIC Part 1 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
3	TOEIC Part 2演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
4	↓
5	TOEIC Part 3 演習 → dictation、会話文のシャドーイング & 暗唱
6	↓
7	↓
8	↓
9	TOEIC Part 4 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
10	↓
11	↓
12	↓
13	TOEIC 問題集(2) part 1 - 4 問題を解き、答合わせ。
14	TOEIC Part 1 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
15	TOEIC Part 2演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
16	↓
17	TOEIC Part 3 演習 → dictation、会話文のシャドーイング & 暗唱
18	↓
19	↓
20	↓
21	TOEIC Part 4 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
22	↓
23	↓
24	↓
25	TOEIC 問題集(3) part 1 - 4 問題を解き、答合わせ。
26	TOEIC Part 1 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
27	TOEIC Part 2演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
28	↓
29	TOEIC Part 3 演習 → dictation、会話文のシャドーイング & 暗唱
30	↓
31	↓
32	TOEIC Part 4 演習 → dictaion、会話文のシャドーイング & 暗唱
33	↓
34	↓
35	↓
36	学年末テスト(TOEIC形式)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(文法)Ⅱ	高野美智子	3単位・54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 650

【講義概要】

1年次に学習した英文法の定着をはかる。
過去問演習を行い、一次試験の形式に慣れる。

回	授業計画及び学習内容
---	------------

1	英文法総復習(演習問題1-2)
2	英文法総復習(演習問題3-4)
3	英文法総復習(演習問題5-6)
4	英文法総復習(演習問題7-8)
5	英文法総復習(演習問題9-10)
6	英文法 到達度テスト
7	航空大学校 過去問演習1
8	航空大学校 過去問演習2
9	航空大学校 過去問演習3
10	海上保安庁 過去問演習1
11	海上保安庁 過去問演習2
12	海上保安庁 過去問演習3
13	航空学生 過去問演習1
14	航空学生 過去問演習2
15	航空学生 過去問演習3
16	TOEIC Part 5 & 6 演習1
17	TOEIC Part 5 演習1の解説、Q & A
18	TOEIC Part 5 演習1の解説、Q & A
19	TOEIC Part 6 演習1の解説、Q& A
20	TOEIC Part 6 演習1の解説、Q& A
21	TOEIC Part 5 & 6 演習2
22	TOEIC Part 5 演習2の解説、Q & A
23	TOEIC Part 5 演習2の解説、Q & A
24	TOEIC Part 6 演習2の解説、Q& A
25	TOEIC Part 6 演習2の解説、Q& A
26	TOEIC Part 5 & 6 演習3
27	TOEIC Part 5 演習3の解説、Q & A
28	TOEIC Part 5 演習3の解説、Q & A
29	TOEIC Part 6 演習3の解説、Q& A
30	TOEIC Part 6 演習3の解説、Q& A
31	TOEIC Part 5 & 6 演習4
32	TOEIC Part 5 演習4の解説、Q & A
33	TOEIC Part 5 演習4の解説、Q & A
34	TOEIC Part 6 演習4の解説、Q& A
35	TOEIC Part 6 演習4の解説、Q& A
36	学年末テスト(TOEIC形式)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	英語(リーディング)II	高野美智子	3単位・54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

航空大学校・海上保安学校(航空課程)・防衛省航空学生の一次試験(筆記)突破を目標とする。
TOEIC公開試験を最低2回受験し、スコアを提出させる。
目標: TOEIC 650

【講義概要】

長く難易度の高い英文を速く、正確に読む練習をする。
過去問演習を行い、一次試験の形式に慣れる。

回	授業計画及び学習内容
1	英文読解演習
2	
3	
4	
5	
6	
7	航空大学校 過去問演習1
8	航空大学校 過去問演習2
9	航空大学校 過去問演習3
10	海上保安庁 過去問演習1
11	海上保安庁 過去問演習2
12	海上保安庁 過去問演習3
13	航空学生 過去問演習1
14	航空学生 過去問演習2
15	航空学生 過去問演習3
16	TOEIC Part 7 演習1
17	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q & A
18	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q & A
19	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q& A
20	TOEIC Part 7 演習1の解説、Q& A
21	TOEIC Part 7 演習2
22	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
23	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
24	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
25	TOEIC Part 7 演習2の解説、Q & A
26	TOEIC Part7 演習3
27	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
28	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
29	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
30	TOEIC Part 7 演習3の解説、Q & A
31	TOEIC Part 7 演習4
32	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
33	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
34	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
35	TOEIC Part 7 演習4の解説、Q & A
36	学年末テスト(TOEIC形式)

【成績評価方法】

- ・TOEIC公開試験を1年に2度受験し、そのスコアを参考に評価を行う。
- ・評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とする。担当教員は、北米に約3年の留学経験を持つ。英語力を生かしつつ、航空会社のCA、外資系企業の外人付秘書、人事採用担当、法務部にて弁護士アシスタント業務などの経験がある。自身の経験やエピソードを交えながら授業展開する。

TOEIC スコア: 970

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	文章理解Ⅱ	堀切昌美	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

文章理解Ⅰを履修してきた学生であるので、本年度の公務員採用試験を突破することを目標とし授業を展開する。

【講義概要】

前期は、公務員試験本試験にむけて過去問題を中心に力をつけていく。後期は、主に、社会に出たときに恥ずかしくないような国語力を高める授業展開をする。

回	
1	文章合致問題を解く(1)
2	文章合致問題を解く(2)
3	趣旨把握問題を解く(1)
4	趣旨把握問題を解く(2)
5	空欄補充問題を解く(1)
6	空欄補充問題を解く(2)
7	文章整序問題を解く(1)
8	文章整序問題を解く(2)
9	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(1)
10	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(2)
11	国語問題 四字熟語・故事成語・ことわざ問題を解く
12	国語問題 慣用句・同音異字語、漢字問題を解く
13	国語問題 敬語・文法問題を解く(1)
14	国語問題 敬語・文法問題を解く(2)
15	過去問題に挑戦 (1)
16	過去問題に挑戦 (2)
17	過去問題に挑戦 (3)
18	中間試験 振り返り
19	新聞記事から考える(1)
20	新聞記事から考える(2)
21	新聞記事から考える(3)
22	本の紹介と要約(1)
23	本の紹介と要約(2)
24	本の紹介と要約(3)
25	グループディスカッション(1)
26	グループディスカッション(2)
27	グループディスカッション(3)
28	グループワーク(1)
29	グループワーク(2)
30	グループワーク(3)
31	グループワーク(4)
32	いろいろな文章に触れる 業界紙・雑誌(1)
33	いろいろな文章に触れる 業界紙・雑誌(2)
34	いろいろな文章に触れる 業界紙・雑誌(3)
35	定期試験 ふりかえり
36	まとめ

【成績評価方法】

前期試験(中間・期末テスト)、後期試験(中間・期末テスト)の平均得点から成績評価をする。グループワークなど授業への参加・意欲、提出物を加味する。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

演習を中心に、個別対応を多めに取って、弱点克服にあてる。効果的な読解方法については、講義形式で、正答率を上げる取り組みも適宜行なう。担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培った日本語の能力や社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあっている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	総合講座Ⅱ	堀切昌美	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

年二回実施される【ビジネス能力試験(ジョブパス)】3級の合格を目指す。

【講義概要】

就職活動の準備として、社会人としてのマナーやモラルを身につけるための学習を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	キャリアとは仕事へのアプローチ・身だしなみの基本
2	将来の自分。仕事への取り組み方
3	組織人としての重要な心構え・仕事の進め方
4	「お客様第一」主義・8つの意識
5	コミュニケーションとビジネスマナーの基本
6	指示の受け方と報告・連絡・相談
7	話し方と聞き方のポイント
8	尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分け
9	電話対応・来客対応と訪問の基本マナー
10	冠婚葬祭のマナー
11	仕事のマニュアル化
12	ビジネス文書の基本
13	統計データの作り方・読み方
14	情報収集とメディアの活用
15	会社数字の読み方
16	ネットワークと電子メールの活用
17	ビジネス用語
18	時事問題 その1
19	時事問題 その2
20	社会人としてのルールと企業倫理・コンプライアンスの重要性
21	情報収集のためのメモの取り方
22	ビジネス会話の特徴と目的
23	商談にあたっての心構え・基本行動
24	会議の基本的な流れ・議事録をまとめるポイント
25	人前で話す方法・話の構成
26	人前で話す実践編
27	プレゼンテーション(その1)
28	プレゼンテーション(その2)
29	プレゼンテーション(その3)
30	チームワークの意義と重要性
31	仕事に影響を及ぼす人間関係
32	問題発見と解決の方法
33	論理的思考法・分析の概念
34	報告書の書き方・企画書の書き方・社外文書
35	国際経済と日本経済
36	ビジネスの基本と法律

【成績評価方法】

各課題の節目ごとにペーパーでの小テストを実施。また前期・後期それぞれの試験の平均点、及び授業内の平常点を加味する。

検定試験合格を一つの基準とし、総合成績として評価する。評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・社会生活の基礎としての自覚を持たせ、ビジネス用語や時事問題、社会状況の把握をさせる。

・担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培ったビジネスマナーや社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
工業専門課程	航空学科 大学コース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ケーススタディ	瀬戸口 仁	4単位・72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

公務員や社会人にふさわしい倫理・道徳観ならびに知識を身につける。

【講義概要】

行政や民間企業など実社会で働くためには、国民や利用者に奉仕する意識が欠かせないし、また様々の不祥事を絶対に起こさないという意識が必要である。そこで、この授業では、行政に関連するさまざまな問題や課題を確認したうえで、関連する法規や制度に依拠しつつ、それらの問題にどう対応すべきかを考えていく。

回	授業計画及び学習内容
1	ガイダンス
2	公務員の不祥事対策 セクシャルハラスメント
3	公務員の不祥事対策 パワーハラスメント
4	どうすれば高齢者に社会保障制度を知ってもらえるか
5	男女共同参画社会をめざして
6	大規模水害対策
7	子どもの貧困対策
8	児童虐待対策
9	個人情報保護法を踏まえてどのように業務に取り組むか
10	特定秘密保護法を踏まえてどのように業務に取り組むか
11	マイナンバー制度について考える
12	前期中間試験
13	規制緩和の意義と問題点
14	憲法改正と国民投票法
15	討論の仕方(その1)
16	討論の仕方(その2)
17	前期期末試験
18	まとめ
19	後期ガイダンス
20	公務員の仕事の特徴 避難勧告を例に
21	公務員の仕事の特徴 海上保安庁を例に
22	公務員の仕事の特徴 警察を例に
23	公務員の仕事の特徴 租税や生活保護を例に
24	公務員の仕事の特徴 し尿処理を例に
25	公務員の仕事の特徴 ごみ処理を例に
26	性的犯罪に関する治安対策について
27	薬物規制について
28	タトゥーの是非
29	障害者の社会参加をめぐる話題
30	現代家族の形態
31	リスク社会をどう生きるか
32	表現の自由をめぐる問題(その1)
33	表現の自由をめぐる問題(その2)
34	混迷する世界情勢をどう生きるか
35	後期期末試験
36	まとめ

【成績評価方法】

試験、小テスト、授業態度、出席率によって総合的に評価する。
評価基準は100点～90点がS、89点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がC、59点以下は不合格とする

【授業の特徴・形式と教員紹介】

・毎週、前週に話題となった時事問題を取り上げ、解説。各自の意見、感想を原稿用紙に書かせ、発表させる。なお、授業実施時点の社会情勢の変化に応じて、授業内容を適宜変更する。
・担当教員は、サンケイスポーツ新聞社で記者として11年間プロ野球を担当。メジャーリーグを始めとする4大プロスポーツ、オリンピック、ワールドカップ等を取材。のち、産経新聞で記者として1年間政治等を取材。そのほか、東北福祉大学等で講師を担当。全国で公演活動を展開。